

Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構

Newsletter No. 121

- 「オンライン授業実践におけるお悩み相談会」を
Zoomにて開催 (3 ページ)
- 全学公開講座「備える：ウィズコロナの時代をどう
生きるか」を開催 (4 ページ)
- 2021年度経済同友会と連携したインターンシップ
プログラムは9社12名の参加 (5 ページ)
- (詳しい目次は裏表紙にあります)

巻頭言 FOREWORD

Unsung heroとして新しい学生支援体制の両輪を回したい

教育改革室 総長補佐 松永 茂樹

世界最先端の研究を志向する総合大学である北海道大学において、華々しい研究成果を生み出す力の源泉は学生一人一人の成長にあります。世界と伍する研究成果を学生と共に生み出していくことで、次世代を担う若い学生の教育や育成にも直結するものと考えます。各部局における研究活動を大学の評価を高めるための「矛」とするならば、学生支援組織は大学の基盤を守る「盾」の役割を担っています。学生支援組織は、地味で目立たない存在かもしれませんが、本学の研究力を維持し高めていくために欠かせない組織と言えるのではないのでしょうか。

これまでの大学教員人生において、私は、世界トップ1%, 0.1%に入る先導的研究成果をあげIFの高

いトップジャーナルに公表すること、および、高い研究能力を有する大学院生を育成し産官学へ送り出すことを主眼に置いて活動してきました。きっと本学の多くの先生方も同じだと思います。

「盾」の役割を担う学生支援組織には全く気をとめることもなく研究と教育に邁進しておりました。しかし、北大に着任して6年目、30名を超える大所帯となった研究室メンバーと一緒に40代半ばの充実した研究者人生を送っていた2020年10月、青天の霹靂

とも言える指名を受け、総長補佐（学生支援）担当として「盾」の役割に携わることとなりました。コロナ禍において、とんでもなく大変な役回りであることを痛感する日々ですが、とにかくできることからやっていくしかありません。膨大な引き継ぎと新しい物事の調査、勉強をしながら走り続けております。

さて、前任の児矢野先生による記事がニュースレター116号に掲載されていますが、以前の本学の学生支援体制は全旧帝大の中で圧倒的劣位にあり、学生支援が十分に届かず、現場の奮闘によりなんとか持ちこたえている状況でした。児矢野先生を中心とするメンバーのリーダーシップと献身によって「学生相談総合センター（なんでも相談）」と「保健センター（医療の観点からの支援）」の両輪に基づく新しい全学学生支援体制が立ち上がったのはつい最近のことです。2019年4月から本格的に稼働し始めた新体制下において、両輪の相乗効果を生む適切な連携と役割分担が進めば、多種多様な学生への支援を効果的に届けることができると信じております。新体制を引き継いだ私の役割は、1) 新体制における全学学生支援組織の両輪が、互いの専門性を活かしつつ、要支援ステージに応じた適切な学生支援を届ける連携体制を構築すること。2) 組織再編の過程で十分に整備しきれなかった部分を補完し、学生支援の網目からこぼれ落ちる学生が無いようにすること。の2点だと考えて地道に活動しています。「矛」を担う総長補佐や未来戦略本部の先生方のお仕事をちょっぴり羨ましく眺めながら、“北大のunsung heroを目指すのだ！”と自らを鼓舞し、孤軍奮闘（単なる空回り？）、「盾」の役目を果たしていく所存です。

学内の現状を冷静に分析すると、保健センターは確固たる地位を築いており認知度も高いのに対し、新しい学生相談総合センターの認知度は徐々に高まりつつある、という状況です。学生相談総合センターでは、専任教員、カウンセラー、コーディネーター、

学生ピアサポーターの密接な協力により、多面的に学生の悩みに対応可能な体制が構築されています。

「なんでも相談」を受け付け、困っている学生と早期に接触する機会が多いことから、問題が大きくなるのを未然に防ぐ役割、個々のニーズに合致したきめ細やかなサポートが得られるようにコーディネートする役割を担います。世界中から留学生を受け入れ本学の国際化を進める上でも、文化や風習の異なる留学生を親身に支え豊かな人間関係を築いてもらうための支援活動は非常に重要だと思います。学生相談総合センターの認知度が高まるにつれて急激に相談件数が増加しており、本学学生の潜在ニーズに適合していたのだとの確信を深めています。総長補佐の立場からすると、本学の学生支援組織は、他旧帝大と比較してまだまだマンパワーの点で脆弱であるなど、心配の種は尽きないのですが、できうる限りの学生支援を届けるために多くの教職員（unsung hero達）が奮闘しています。彼らの日々の献身的な取り組みに感謝するとともに、研究活動に全力で打ち込んでいる教員の皆さんにも、「盾」の役割の重要性をご理解いただきたいと願っています。本学の学生支援体制はまだまだ試行錯誤のステージですので、お気付きの点があれば、ご意見や提言をなんでもお寄せください。批判的なものでも大歓迎です。「無関心」が一番困ります！

最後にお願いです。是非、学生相談総合センターのHP (<https://www.sacc.hokudai.ac.jp/>) をご覧ください。様々な学生支援内容がわかりやすく掲載されています。あらかじめどのような支援体制があるのか知っているだけで、緊急事態に直面した際に、機を逸することなくスムーズに支援を受けることができます。また、〈学生の緊急支援体制〉に関するマニュアルや支援体制図も学内限定公開しています (<https://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/gakunai.html>)。平時に一度アクセスしておいていただき、有事に思い出していただければと思います。

教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

「オンライン授業実践におけるお悩み相談会」をZoomにて開催

北海道大学高等教育研修センターでは5月7日（金）13:30～15:00、オンライン授業実践に関して参加者の間で情報交換を行い、悩みを共有し、解決策について話し合うことを目的として「オンライン授業実践におけるお悩み相談会」をZoomで開催し、11校から24名の方々にご参加いただきました。

イベントでは、2つのツールを紹介しました。1つ目は参加者のコメントが画面に流れるツール「Comment Screen」です。Zoomなどを使ったリアルタイム双方向型オンライン授業での受講者とのリアルタイムでのやり取りを向上させ得るツールとして、参加者の皆さんに実際に体験してもらいました。

2つ目は、オンラインホワイトボード「Miro」です。自由度が高く、ブレイクアウトルームなどを用いたグループワークの際にグループ作業の結果を

まとめたり、成果発表をこのツール上で行ったりすることが可能で、これも実際に参加者同士でグループワークを行う際に体験してもらいました。

参加者の皆さんは新しいツールを試しながら活発に意見交換をされていました。事後のアンケートでは、「新しいツールの存在を知ることができて良かった」「いろんな先生方の悩みを知ることができ、参考になった」「時間が足りなかった」といった声が寄せられました。

この他、6月22日（火）に学生相談総合センターアクセシビリティ支援室の主催で行われた、「発達障害のある学生から見た世界を知る～学生対応に活かすために～（令和3年度第1回高等教育における障害のある学生の支援に関する研修会）」に、共催として協力しました。

（立花 優）



写真1 Zoomで参加者に話しかける講師の様子

写真2 Miroでの共同作業の内容を全体にフィードバックしながら議論を進めている様子

地域社会連携 Community Relations

全学公開講座「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」を開催

6月3日から7月29日にかけて、令和3年度の北海道大学公開講座（全学企画）をオンラインで行いました。本公開講座は、例年夏に開催していますが、昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて中止しました。今回は、昨年度予定していた講座内容を引き継ぐ形で、2年ぶりに開催しました。

テーマは、昨年度予定していた通り「備える」とし、新たに「ウィズコロナの時代をどう生きるか」という副題を加えました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、新たなリスクに対して備えることの難しさを、私たちに改めて認識させる経験となりました。近年、感染症の他にも、災害や気候変動、少子高齢化など、自然と社会の急激な変化にい

かに備えるかが、ますます切実な課題となっています。講座では、例年どおり全学の教員で構成する北海道大学公開講座実施専門部会（座長＝尾崎一郎・法学研究科教授）において選ばれた8人の教員が、交代で講師を務めました。

講座の日程と、担当講師と講義題目は表1の通りです。

各回の講義は、道外からの参加も含めて108人～153人が受講し、のべ受講者数は1,075人でした。6回以上の講義に出席した123人のうち、希望者に修了証書を発行しました。

（三上 直之）

表1 令和3年度北海道大学公開講座（全学企画）
テーマ：「備える：ウィズコロナの時代をどう生きるか」

日 程		講義題目	担当講師
第1回	6月3日（木） 18：30～20：00	パンデミックインフルエンザに対する備えはできた	喜田 宏 北海道大学名誉教授・ユニバーシティプロフェッサー
第2回	6月10日（木） 18：30～20：00	地球温暖化って本当？ どんないことが起こるの？	低温科学研究所 大島 慶一郎 教授
第3回	6月17日（木） 18：30～20：00	北海道を襲う超巨大地震にどう備える？	理学研究院 高橋 浩晃 教授
第4回	6月24日（木） 18：30～20：00	食料生産の未来に備える～農業研究開発制度の今～	農学研究院 齋藤 陽子 講師
第5回	7月1日（木） 18：30～20：00	心はいつも未来に備えている 「意識」研究の最前線	文学研究院 田口 茂 教授
第6回	7月8日（木） 18：30～20：00	がんを克つ～現代の武器を知る～	北海道大学病院 樋田 泰浩 准教授
第7回	7月15日（木） 18：30～20：00	人生100年時代に備える～地域福祉・介護の動向と展望～	公共政策学連携研究部 中園 和貴 教授
第8回	7月29日（木） 18：30～20：00	縄文文化と「そなえる」をめぐる考古学	文学研究院 小杉 康 教授

学生支援 STUDENT SUPPORT

2021年度経済同友会と連携した インターンシッププログラムは9社12名の参加

2016年度から公益社団法人経済同友会が実施するインターンシップに参加してきましたが、このインターンシップをより発展させるという観点から一昨年度より経済同友会が中心となり「一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会」が設立され、本学も正会員として参画することとなり、同協会の一員として夏季休暇中にインターンシップを毎年実施しているところです。

本インターンシップは経済同友会が提唱した学部1, 2年生からの3～4週間程度のより教育的要素を強くした長期インターンシップですが、昨年度はコロナ禍の中で5社5名、すべてオンラインによる短期間の実施にとどまりました。

こうした中で、昨年度同協会でもとめた「オンライン実習に関する教育価値向上のポイントについて」(<https://www.doyukai-internship.or.jp/news/201208.html>)をもとに、今年度も、やや期間も短くなりますが、対面とオンラインとの併用で実施される予定です。高等教育推進機構では、5月中旬から参加希望学生の募集を行い、その後、書類審査と面接により、住友林業、キッコーマン、キッツ、JR東日本、アスクル、イオン、第一生命保険、みずほ証券、小松製作所の9社12名の学生の派遣を決定しました(表1)。

(亀野 淳)

表1 2021年度経済同友会と連携したインターンシップ参加企業・学生一覧

企業名	日数	開始日	終了日	人数	実施方法	学部	学年
住友林業	6日間	8/30	9/4	2	オンライン	農学部	2
						水産学部	2
キッコーマン	5日間	8/27	9/2	1	オンライン	教育学部	2
キッツ	10日間	8/23	9/3	1	対面 (山梨)	工学部	2
東日本旅客鉄道	10日間	9/6	9/17	1	ハイブリッド (東京)	工学部	2
アスクル	5日間	9/6	9/10	2	オンライン	経済学部	2
						総合理系	1
イオン	5日間	8/16	8/20	1	オンライン	経済学部	2
第一生命保険	5日間	9/6	9/10	2	オンライン	理学部	2
						水産学部	2
みずほ証券	5日間	9/6	9/10	1	オンライン	経済学部	2
小松製作所	10日間	8/23	9/3	1	対面 (神奈川)	工学部	2

新任紹介 INTRODUCTION OF NEW STAFF

着任のご挨拶

高等教育研修センター ラーニングサポート部門
特任助教 立花 優

2020年12月1日付で特任助教を拝命しました，立花優と申します。

神戸大学法学部を卒業後，本学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻スラブ社会文化論専修に進み，旧ソヴィエト連邦の一構成国であったアゼルバイジャンの現代政治を研究テーマとして博士号を取得しました。現在は研究対象をコーカサス地域に広げ，政治に加えて宗教や紛争も視野に入れています。

2016年4月より2020年11月末まで，高等教育研修センターラーニングサポート部門，通称「ラーニングサポート室」の特定専門職員として，学生アンケート等のデータ分析や学生の進路相談を中心とした学生支援業務に携わりました。昨年からの新型コロナ禍は，学生支援分野においても大きな試練をもたらしました。私は学生の状況把握を図るため，本学1年生を対象とした「授業課題に関する調査」を企画・実施する一方，修学支援のためのチャットサポート

サービス「ラーサポくんに聞いてみよう！」の導入を主導しました。

特任助教拝命後は，高等教育研修センターファカルティ・ディベロップメント（FD）部門の業務を補佐しております。手始めとして，昨冬実施された「オンライン授業に関する学生向け・教員向けアンケート」の企画立案・調整・実施業務に携わり，分析結果を昨年度末のFD研修にて報告いたしました。

私は2016年からの4年余を職員として過ごし，今後は教員の側から本学に関わることとなります。大学における教職協働が言われる中，この経験は大変貴重であると考えています。本学学生へのより良い組織的な支援の形を，そして本学におけるより充実した学びの提供を，FDという観点から追求していきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。



日誌 EVENTS, April-July

4 月

- 2 日・5 日 (行事)
新渡戸カレッジ入校説明会 (対面・オンライン実施) (大学院)
- 5 日・7 日 (行事)
新入生オリエンテーション, 総合教育部ガイダンス
- 9 日 (行事)
新渡戸カレッジ基礎プログラム入校説明会 (学部)
- 9 日 (会議)
第 1 回新渡戸カレッジ執行部会
- 13 日 (行事)
新渡戸カレッジ基礎プログラム仮入校合格発表 (学部)
- 14 日 (行事)
新渡戸カレッジオナーズプログラム合格発表 (大学院)
- 15 日 (会議)
ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
- 15 日～21 日 (会議)
令和 3 年度第 1 回高等教育推進機構運営委員会 (持ち回り)
- 17 日 (行事)
新渡戸カレッジTOEFL-ITPテスト (学部)
- 17 日 (行事)
新渡戸カレッジTOEIC-IPテスト (大学院)
- 19 日・21 日 (行事)
新渡戸カレッジオナーズプログラム入校者ガイダンス (学部)
- 19 日・23 日 (行事)
オンライン教育セミナー「ハイフレックス型授業の実施方法」
- 20 日 (会議)
令和 3 年度 第 1 回大学院共通教育委員会
- 22 日 (会議)
第 1 回高等教育推進機構総合教育委員会学生専門委員会
- 24 日～5 月 7 日 (行事)
新渡戸カレッジ第 1 回対話プログラム (オンライン実施) (学部)
- 28 日 (会議)
第 1 回教育改革室会議 (メール審議)

- 30 日 (会議)
第 1 回新渡戸カレッジ運営会議大学院教育コース教務専門委員会 (オンライン実施)

- 30 日 (会議)
第 1 回授業評価専門部会

5 月

- 6 日 (行事)
新渡戸カレッジ基礎プログラム合格発表 (大学院)
- 7 日 (会議)
第 1 回新渡戸カレッジ運営会議学部教育コース教務専門委員会 (オンライン実施)
- 7 日 (会議)
第 2 回新渡戸カレッジ執行部会
- 7 日 (研修)
オンライン授業実践におけるお悩み相談会 (研修センター)
- 7 日～14 日 (会議)
令和 3 年度第 2 回高等教育推進機構運営委員会 (メール審議)
- 8 日・9 日 (行事)
「哲学対話カフェ～死者の言葉の紡ぎかた～」オンライン
- 11 日 (会議)
第 1 回学生委員会 (持ち回り)
- 12 日 (会議)
入学者選抜委員会
- 14 日 (行事)
第 1 回フェロー・メンター交流会・研究会 (オンライン実施) (学部)
- 14 日 (会議)
第 1 回新渡戸カレッジ運営会議 (オンライン実施)
- 15 日 (行事)
新渡戸カレッジ入校式 (オンライン実施) (学部)
- 15 日 (行事)
新渡戸カレッジ入校式・オリエンテーション・初回授業 (オンライン実施) (大学院)
- 15 日 (行事)
2021年度CoSTEP開講特別プログラム「科学をまちに出そう, 未来のまちをつくらう ～デジタル時代の科学技術コミュニケーション～」オンライン
- 18 日 (会議)
第 1 回総合教育委員会

20日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
 21日 (会議) 第111回教務委員会 (メール審議)
 25日 (会議) 第2回教育改革室会議 (メール審議)
 26日 (会議) 令和3年度第1回北海道FD・SD協議会幹事会
 26日 (行事) 第1回新渡戸カレッジ特別講演会 (オンライン実施) (学部)
 27日 令和4年度フロンティア入試・国際総合入試・帰国子女入試 学生募集要項公表

22日 (研修) 発達障害のある学生から見た世界を知る ～学生対応に活かすために～ (主催: 学生相談総合センターアクセシビリティ支援室/共催: 高等教育研修センター)
 22日 (会議) 令和3年度第3高等教育推進機構運営委員会
 25日 (会議) 令和3北海道FD・SD協議会総会
 30日 (行事) 第2回新渡戸カレッジ特別講演会 (オンライン実施) (学部)
 3日～7月29日 (行事) 北海道大学公開講座 (全学企画)

6月

4日 (会議) 第3回新渡戸カレッジ執行部会
 4日 (行事) オンライン勉強会「米国におけるコロナ禍のオープンエデュケーションと展望」
 6日～11日 (会議) 令和3年度 第2回大学院共通教育委員会 (持ち回り)
 12日 (研修) 新渡戸カレッジ教員対象FD「プロジェクトマネジメントワークショップ」(オンライン研修) (大学院)
 13日 (行事) 第117回サイエンス・カフェ札幌「この花の名は。～北海道大学の植物分類学の歴史から～」オンライン
 15日～28日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ評価委員会 (メール審議)
 17日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
 19日 (行事) 第1回新渡戸カレッジメンターフォーラム (オンライン実施) (大学院)
 22日・24日 (行事) 新渡戸カレッジ専門職倫理セミナー2021 (オンライン実施) (大学院)

7月

1日～13日 (行事) 新渡戸カレッジ第2回対話プログラム (オンライン実施) (学部)
 2日 (行事) 第3回新渡戸カレッジ特別講演会 (オンデマンド配信) (学部)
 2日 (会議) 第4回新渡戸カレッジ執行部会
 6日 (会議) 入学者選抜委員会 (臨時)
 14日 (行事) 第4回新渡戸カレッジ特別講演会 (オンデマンド配信) (学部)
 15日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケーションセンター連絡会
 16日 令和4年度入学者選抜要項公表
 26日 (会議) 第2回授業評価専門部会
 27日 (説明会) 北海道大学入試説明会 (オンライン開催)
 29日・30日 (行事) 2021サイエンスパーク「トイニメーション」
 30日 (会議) 第2回学生委員会 (持ち回り)

行事予定 SCHEDULE, September-December

◆9月

上旬～中旬

学科等分属手続：当該学部(2年次以上)

24(金)～29(水)

抽選科目の申込期間(Web入力)

24(金)～29(水)

第1次Web履修登録期間

29(水) 学部・学科等移行ガイダンス

30(木) 学部・学科等紹介

30(木) 抽選科目の結果発表日

30(木)～7(木)

第2次Web履修登録期間(Web入力)

下旬 ISP入学式

◆11月

24(水)～26(金)

履修登録科目の取消期間(Web)

◆12月

1(水)～3(金)

自由設計科目登録変更期間

28(火)～1月4日(火)

冬季休業日

◆10月

1(金) 第2学期授業開始日

1(金) 抽選科目の追加申込日

1(金)～7(木)

学部・学科等移行手続き(予備志望調査)

11(月) 予備志望調査結果発表

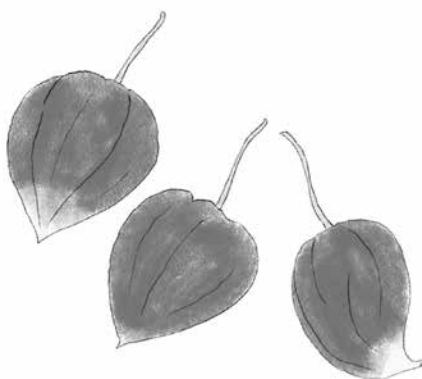
13(水)～14(木)

履修時間割確認期間



ニュースレター 2021, No.121 目次

(巻頭言) Unsung heroとして新しい学生支援 体制の両輪を回したい 松永 茂樹 1	2021年度経済同友会と連携したインターンシップ プログラムは9社12名の参加 5
「オンライン授業実践におけるお悩み相談会」を Zoomにて開催 3	新任紹介 6
全学公開講座「備える：ウィズコロナの時代を どう生きるか」を開催 4	日誌 7
	行事予定 9
	目次・編集後記 10



編集後記

新型コロナが一筋縄ではいかない相手だということがわかってきました。それでも、IRコンソーシアムの2020年度全国調査によると、学生の皆さんは、他人とのコミュニケーションの機会が減りましたが、他方でコンピュータの扱いがうまくなり、文章能力も向上しています。教員もITを駆使した授業手法を身につけることができました。コロナ禍に手に入れたこれらの利点をうまく活かしながら、次世代の大学教育を築いているのが、今の時代だと思いたいですね。

(歳)

ニュースレター

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)
通算 第121号

発行日： 2021年8月31日
発行元： 北海道大学高等教育推進機構
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
編集委員：◎細川敏幸・亀野淳・飯田直弘・岩間徳兼
ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで
電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521
インターネットホームページ：
<https://high.high.hokudai.ac.jp/publication/newsletter/>